

新・奥の細道

山形西ルート

②

クアと最上川三難所をめぐるみち

Kua-to-mogamigawa-sannansho-o-meguru-miti



山形県

GUIDE

みどころ案内

最上川三難所舟下りと温泉が楽しめるルートです。かつて舟乗りたちに恐れられた碁点・三ヶ瀬・雫の3つの難所が体験でき、また、画仙小松均ゆかりの神社、戦国の豪族白鳥十郎長久公の顕彰碑などをめぐり、村山市の歴史をたどることができます。

最上川三難所舟下り Mogamigawa-sannansyo-hunakudari

山形県を南北に貫通して流れる最上川は、吾妻山を起点とし酒田で日本海に注ぐ、全長229kmに及ぶ川です。川は季節とともに移り行く豊かな表情、不思議な魅力をもっています。自然の営みと歩調を合わせて化粧する川の表情は、千変万化に富んでいます。「昨日の姿は今日はない。」「今日の姿は明日はない。」と言うように、いつきの表情の豊かさが感動を与えてくれます。その変幻自在な川の表情をもっとよく残しているのが、碁点・三ヶ瀬・雫の三難所です。不連続な岩礁の存在、瀬と淀み、浅瀬と深淵の繰り返しは、かつて舟頭にただならぬ緊張感を与えていました。特に、風を便りにする帆船は変曲する川の流れと山波に押しよせる風向きの違いに翻弄され、度重なる舟事故に恐怖すら覚えたといわれています

- 利用案内
- ◆料金/大人1970円、小人990円
- ◆お問い合わせ/☎0237-57-2235



最上川三難所舟下り



白鳥城址

在家の西側にあります。この城が完成されたのかどうかは疑問が残るところですが、他に毛倉森、柏木森、碁点地区、長善寺地区、日影地区にも楯跡の構架が見られます。これらは、位置や規模などから考察して支城と推定されています。

白鳥十郎長久公顕彰碑 Satoriji-ro-joshi

白鳥十郎長久公について山形県史では、「おそらく白鳥郷の村落の主として成長した国人であったと思われる。」と述べられています。河北町の歴史や「白鳥長久公」(中里松蔵著)では「武家評林」の白鳥家系をもとにして、岩手県胆沢郡白鳥村(現前沢町)に居館した安部頼時の八男行任としています。前九年の役で安部貞任が源頼義に亡ぼされた時、則任(貞任の末子、行任の子)は出羽国にのがれ、葉山に入って大円院の庇護を受け山麓の白鳥に下り「白鳥氏」と称したとしています。谷地進出の時機については、はっきりしたことは分らず、慈眼寺文書には「天文4年(1535年)12月吉日、中條又四郎元服して長昌と称す」とあるため、その以後である。谷地の神社の縁起書の中に「谷地城主白鳥十郎崇敬」と書いたものがあるが、年代の古いのは月山神社のもので「永禄年中谷地城主白鳥十郎崇敬、社殿再建、天正年中戦勝祈願大いに修造」とあり、推定すれば永禄のころ(1558年～)と思われます。しかし、白鳥十郎長久公については諸説があり判然としていませんが、地元白鳥地区では次のように語り継がれています。

白鳥十郎長久公は戦国の武将であったが、国盗合戦を一面も挑まぬ名将であった。谷地城中條家に請われて谷地城に移るまで白鳥城を居城とし、領民からこよなく敬慕された城主だった。そのような人柄もあり、寒河江の大江公や葉山修験者からの協力も自然と得られるようになった。しかし最上義光は、ますます人望が厚くなる長久公に己の身の危険を感じ、政略結婚を契らせるなどして山形城に招き討ち果たしたと言われる。



白鳥十郎長久公顕彰碑

月山権現神社 Gassan-gongen-jinja

月山権現神社や御堂には、画仙小松均が筆をふるった「月山大権現」ののぼりと、彫刻家を目指した頃に自ら彫った仏像や烏天狗などが残っています。

◎画仙 小松均

画仙小松均は、明治35年(1902年)大石田町深堀の延命寺に生まれる。彼が2才のとき父が不慮の死にあい、母の生家である村山市宮下地区の細谷家に16才まで身を寄せる。18才のとき、上京して画家を志し川端画学校に入学。21才のとき、中央美術展に応募し、「嫁してゆく村の乙女」が初入選。22才のとき、父の死をモチーフとした作品が入選。23才のとき京都で土田麦僊の師事を受け、東山洋画研究所に通いデッサンを学んだ。晩年「最上川源流・栗の花咲く最上川・最上川難所(三ヶ瀬・碁点)」を描き続ける。均は、このように少年時代に遊んだここ宮下の美しい風景や思い出を、多くの作品に残している。



月山権現神社

白鳥城址 Satoriji-joshi

標高190m、南北26m、東西40mの広さをもつ白鳥城本丸は、北側の1段低い南北56m、東西18mまで台地が続いておりここまでが一の丸と見られます。この一の丸の西側に大きな堀切りが見られ、不動尊沢に続いています。南東にそれぞれ二重の曲輪の構築があり、本丸の東の台地が通常の二の丸と呼ばれるところで、館跡地や上級武士の居館地であったと考えられます。三の丸は小学校舎の西側の台地の上野というところで武士の住居地であったと考えられます。樽石川から引水した御堂の堰は、三の丸に引水したと言われていますが、通水が実現したか不明です。白鳥城の本城は土海

碁点文殊院 Goten-monjuin

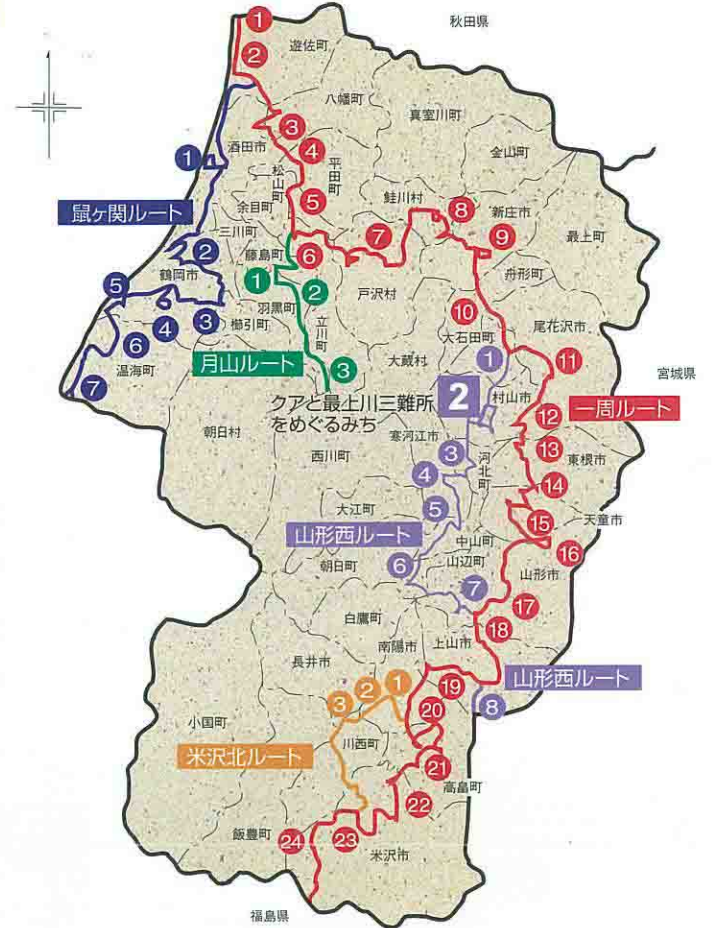


碁点文殊院

碁点文殊院には文殊菩薩があります。碁点文殊菩薩は、中国から求めたものを本体として、村山市出身の仏師村岡久作氏によって彫り上げられ、昭和58年碁点文殊院が建立されたものです。

YAMAGATA MAP

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図



“新・奥の細道”とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特徴ある文化や歴史と親しむためのみちです。“新・奥の細道”は正式には東北自然歩道といえます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この“新・奥の細道”は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで469Kmとなっています。

この“新・奥の細道”を楽しむために

- 1.コースのみどころ、地形、距離をあらかじめ調べて、余裕のある日程を組みましょう。
 - 2.歩きやすい服装で、荷物は最小限にとどめましょう。
 - 3.天気予報に注意して、天気のいい日を選んでゆっくり歩きましょう。
- この3つを守り、友人と、家族と、さあ出発！

おねがい

- ・ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。
 - ・たばこの投げ捨てや、山火事には十分注意しましょう。
 - ・案内板や休憩所はみんなのもので、大切にしましょう。
 - ・美しい自然は、人間だけのものではありません。草花や虫たち、小鳥たちのためにも自然を汚さないようにしましょう。
- そして、美しい自然を後世まで伝えていきましょう。

このみちは、年金積立金元還融資を受けてつくられました。

周辺のアクセスガイド

- ・村山市基点までは
- ・JR山形駅から榎岡駅まで奥羽本線で40分
- ・榎岡駅から車又はバスで15分
- ・山形空港よりタクシーで25分



観光・宿泊のお問合せ	村山市観光協会 〒995 村山市中央一丁目3-6	☎0237-55-2111
交通のお問合せ	JR榎岡駅 〒995 村山市榎岡新町一丁目10-1	☎0237-55-2011
コースのお問合せ	村山市商工観光課 〒995 村山市中央一丁目3-6	☎0237-55-2111
	山形県環境保護課 〒990-70 山形市松波2-8-1	☎0236-30-2206